

第22回 職業アレルギー研究会

1991年7月19日 (金)

於 グランドホテル浜松

会長

名古屋大学 名誉教授

第二内科 佐竹 辰夫

## 御 挨拶

職業アレルギー研究会も年を重ねて20年を超えました。その間、会員は、多年にわたり、幾多の新しい職業アレルギー疾患の発見と立証を成し遂げて職場環境の改善に叡智を披瀝し、産業衛生のレベル向上に多大の貢献をして参られました。

一方、今般、日本アレルギー学会が認定医、専門医制度を採用するに及び、当研究会も、日本アレルギー学会と同様、研修集会の一つに指定されたのを契機に、従来の closed members 制を open にするなど、新しい発展を求めることになりました。

歴史と将来の狭間の移行をスムーズに行うことが、第22回会長である小生に科せられた期待のようですが、試行錯誤のため、皆様には大なり小なり御迷惑をおかけしたと存じます。一般に、歴史的にみれば、職業アレルギー疾患は、零細企業を中心に発生してきた様相のようです。私どもの恩師久野寧名誉教授（文化勲章受賞者）は「弱者への無限の同情、これを医道という」と教育されてきました。

本会も、open を機に、「医」の本質から「意」を強くもって再出発しようではありませんか。

なお、本会開催に対し、終始絶大な御助力を賜りました藤沢薬品工業株式会社とその関連会社に対し、全会員を代表し、厚く御礼申し上げます。

1991年7月1日

会 長 佐竹 辰夫

## 第22回職業アレルギー研究会実施要項

1. 会期 1991年7月19日(金)
2. 会場 静岡県浜松市東伊場1-3-1  
グランドホテル浜松 本館 2F「孔雀の間」  
TEL 053-452-2111
3. 会場へは 浜松 JR 駅前からタクシーで750円前後
4. 日程  
7月19日(金)

9:30~10:30	役員会議		新館 12F「有明の間」
10:50~11:50	総会	20分	本館 2F「孔雀の間」
	受賞記念講演 I	20分	
		II	20分
11:50~12:50	会員, 随行会員の昼食		本館 2F「白鳥の間」

— 研 究 会 —

12:55~13:00	開会の辞	会長
13:00~14:50	一般演題 (11題, 各10分宛)	
15:00~16:40	シンポジウム I	
	「メタルによる職業性アレルギー疾患」	
16:45~18:25	シンポジウム II	
	「化学物質による職業性アレルギー疾患」	
18:25~18:30	閉会の辞	会長
5. 事務局 本館 2F「末広の間」

## 6. 研究会参加の先生方へ

- 1) 新入会員の受付は11:00から本館2Fの「孔雀の間」入口左で行います。会場整理費5,000円をお支払いの上、参加証をお受け取り下さい。現会員による総会終了後、受賞者講演(11:10)から会場へ入って頂きます。
- 2) 一般演題は1題あたり7分、討論3分とします。進行方法は座長に御一任願います。
- 3) プロジェクターは1台です。スライド受付は会場左の「千歳の間」で、試写もお願いします。スライドは10枚以内で、最初の1枚は目的、最後の1枚は結論にあててください。
- 4) 研究会当日中に雑誌掲載用最終抄録(演題、所属、氏名とも1200字以内、図表2枚以内)及び100語以内の英文抄録を提出して下さい。シンポジウムも同様です。
- 5) 談話室は「白鳥の間」で13:00~16:30の間、ご自由にお使い下さい。

## 7. 御連絡

- 1) 本研究会は、今回より日本アレルギー学会認定医制度の単位取得学術集會に指定され、オープンとなりました。
- 2) 現会員、新入会員とも、年会費は後ほど群馬大学医学部内の事務所から送付される振込み用紙にてお振込み願います。

役員会議 (9:30~10:30)

総会 (10:50~11:10)

第3回石崎賞受賞記念講演 (11:10~11:30)

座長 獨協医科大学 アレルギー内科

牧野荘平

野生ハチ毒アレルギーの研究 (20分)

獨協医科大学アレルギー内科

生井聖一郎

石崎 達

牧野荘平

第2回光井賞受賞記念講演 (11:30~11:50)

座長 群馬大学 第一内科

小林節雄

ホヤ喘息から木材喘息まで (20分)

勝谷内科医院

勝谷 隆

- 休 憩 -

開会の辞 (12:55~13:00)

一般研究発表 (13:00~14:50, 各10分宛)

SECTION (I) (13:00~13:40) 座長 岡山大学 第二内科

木村郁郎

1. 過去20年間に経験した職業性喘息

坪井内科呼吸器科医院

○坪井信治

大塚内科医院

大塚 正

勝谷内科医院

勝谷 隆

県立広島病院

城 智彦

2. 輸入木材 (含米杉材) 工作による職業性喘息の症例について

大分大学保健管理センター 内科

○中村 晋

3. 養鶏業者に見られた鶏羽毛に起因する職業性喘息の一例

岡山大学 第二内科

○高橋 清

木村五郎

猪木篤弘

小栗栖和郎

松岡 孝

宗田 良

多田慎也

木村郁郎

4. 製茶業者にみられた職業性茶喘息の一例

鹿児島鴨池生協クリニック  
鹿児島生協病院

○栃木隆男  
檜田祐一 佐伯裕子  
山下英俊

SECTION (Ⅱ) (13:40~14:10) 座長 国立相模原病院 臨ア研 信太隆夫

5. 営林署職員におけるハチアレルギー

獨協医科大学 アレルギー内科

○来栖 博 生井聖一郎  
牧野荘平

6. 整形外科医のギブス固定時に見られた職業性喘息の一例

国分寺診療所  
同愛記念病院 アレルギー呼吸器科

○小松卓三 佐藤文秀  
佐野靖之

7. 溶接作業時の油煙刺激による喘息の一例

伊勢崎市民病院  
群馬大学 第一内科

○牧元毅之 塚越秀男  
近藤忠徳  
根本俊和 小林節雄

SECTION (Ⅲ) (14:10~14:50) 座長 藤田保健衛生大学 医学部 島 正吾

8. 鼻粘膜過敏性をもたらした OS-oil に対する検討

日本医科大学 耳鼻咽喉科  
日本臓器製薬生物性科学研究所

○谷本秀司 奥田 稔  
石田祐子  
浪松昭夫 吉村弘之

9. イソシアネートによる職業性肺疾患

東京大学 物療内科  
同愛記念病院 アレルギー呼吸器科

○松崎 剛 鈴木直仁  
須甲松伸 奥平博一  
伊藤幸治  
荒井康男 宮本康文  
佐野靖之

10. 肺癌を合併した超硬合金性間質性肺炎の一例

社会保険中京病院 呼吸器科

名古屋大学 第一内科

○野崎裕広 小原央生

西脇敬祐

長谷川好規 下方 薫

11. SRBC 抗体産生応答に関する感作性金属の影響

藤田保健衛生大学 公衆衛生学

藤田保健衛生大学 衛生学

○吉田 勉 島 正吾

谷脇弘茂

栗田秀樹

- 休 憩 -

シンポジウム I (15:00~16:40)

「メタルによる職業性アレルギー疾患」

司会 日下幸則 (自治医科大学 衛生学)

佐竹辰夫 (名古屋大学 第二内科)

1. アルミニウム

国立環境研究所 環境健康部

藤巻秀和

2. ロジウム

済生会中央病院 皮膚科

中山秀夫

3. ベリリウム肺

名古屋大学 第二内科

佐竹辰夫

4. 超硬合金肺

自治医科大学 衛生学

日下幸則

シンポジウム II (16:45~18:25)

「化学物質による職業性アレルギー疾患」

司会 竹内康浩 (名古屋大学 衛生学)

上田 宏 (藤田保健衛生大学 皮膚科学)

1. 化学物質による過敏性肺臓炎

群馬大学医療短期大学 内科

中澤次夫

2. 化学物質による職業性喘息

京都工場保健会

田中健一

3. 化学物質による職業性接触皮膚炎

名古屋大学分院 皮膚科

早川律子

4. 農業による職業性アレルギー疾患

鹿児島大学 衛生学

上田 厚

---

閉会の辞 (18:25~18:30)

# 職業アレルギー研究会賞受賞記念講演

## 1. 第3回石崎賞受賞記念講演 (11:10~11:30)

座長 獨協医科大学 アレルギー内科 牧野 荘平

### 野生ハチ毒アレルギーの研究

獨協医科大学アレルギー内科 ○生井聖一郎 石崎 達 牧野 荘平

近年野生ハチ刺傷による死亡例が多くなりこれらがアレルギー反応によると考えられ、我々は栃木県下で疫学的免疫学的検討を行った。一般人口では約1%の人がハチ刺傷を経験し、若年者に多く、中高年者には全身反応を示す重傷者が多かった。使用した皮膚テストは石崎の判是基準により、スクラッチテストでは1000 $\mu$ g/mlの濃度、皮内反応では1 $\mu$ g/mlの濃度が最もよく正常者と過敏者を分離した。

外国のハチ毒は本邦のハチ毒との間に差異があるかどうか検討した結果、反応性にはあまり差がなく診断に用いても有用であった。

野生ハチ刺傷の危険のある営林署職員について調査したところ、ハチ刺傷経験者は93%と極めて高く、蕁麻疹などを伴う全身反応を示したものは10%、意識障害を伴う重傷全身反応を示したものは0.3%と高い値を示した。

以上は職業アレルギーの見地から注目すべきことであり、これらの職業人には定期検診や救急キットの必要性が考えられる。

<MEMO>

## 2. 第2回光井賞受賞記念講演 (11:30~11:50)

座長 群馬大学 第一内科 小林節雄

### ホヤ喘息から木材喘息まで —30年の回顧—

勝谷内科医院

勝谷 隆

故光井先生のご指導のもと、城博士をリーダーとするグループによるホヤ喘息の調査研究が始められてから既に30年に近い歳月が流れている。

この度、第一回の城博士につづき、光井賞という身に余る栄誉を受けるにあたり、ホヤ喘息予防のための30年間の努力の軌跡をたどってみたい。

広島県下のカキ作業場では様々な工夫により、患者発生率の急速な低下、喘息症状の軽症化がもたらされた。

また、これは木材粉塵による喘息においても同様で、家内工業的な作業場においても努力が続けられ、その後の発生をみていない。

反面、輸入木材の増加に伴い、目立ってきている米マツ (Douglas fir) による職業性喘息についてもふれてみたい。

<MEMO>

# 一般研究発表

SECTION (I) (13:00~13:40) 座長 岡山大学第二内科 木村 郁郎

## 1. 過去20年間に経験した職業性喘息

坪井内科呼吸器科医院 ○坪井 信治  
大塚内科医院 大塚 正  
勝谷内科医院 勝谷 隆  
県立広島病院内科 城 智彦

過去20年間に173例の職業性喘息（ホヤ喘息77例，木材関連の喘息42例，有機溶剤による喘息23例，毛筆喘息12例，小麦粉喘息6例，メッキ工の喘息3例，菊栽培者の喘息3例，医薬品による喘息2例，養蜂関連の喘息，ステビア，貝殻，椎茸，そば喘息各1例）を経験した。この間の広島病院初診気管支喘息例は5935例で，職業性喘息は119例，2%であった。

発生する職業，作業環境，原因抗原などは複雑多岐にわたり，それぞれ病型も異なるため，このような疾患の存在をつねに念頭におき，その予防，治療法も各症例ごとに，きめ細かに対応する必要があることをのべた。

<MEMO>

## 2. 輸入木材（含米杉材）工作による職業性喘息の症例について

大分大学保健管理センター内科

○中村 晋

最近新建材の素材として種々の外材が輸入されこれらの加工業者間に職業性喘息が惹起され問題になっている。今回は複数の外材の関与する症例を提示し若干の問題点を指摘する。

症例は55歳の男子、大工で5年前木工会社に入社、米杉、米栂、スプルース等の外材で玄関の扉を作る仕事に従事しこれと関連して喘息発作をみるようになったが、特に米杉を扱うと悪化すると訴え精査のため来院。皮内反応とその閾値及び吸入試験から米杉並びにラワン材によると考えられた。これら外材は海中に貯木され、ほやに対する皮内反応が陽性であることからこの関与も示唆され、RASTを試みたが陰性であった。患者は交通事故で本年1月より整形外科に入院中で、この間症状は皆無となり、木材粉塵喘息と確診される。

<MEMO>

### 3. 養鶏業者に見られた鶏羽毛に起因する職業性喘息の一例

岡山大学第二内科 ○高橋 清, 木村 五郎, 猪木 篤弘,  
小栗栖和郎, 松岡 孝, 宗田 良,  
多田 慎也, 木村 郁郎

養鶏業者の職業性喘息を経験したので報告する。症例は60歳男性, 30歳頃から養鶏業に従事。8年前に喘息発症し, 養鶏作業にて発作増悪す。IgE475U/ml, RASTscoreはHD2, ダニ4, カンジダ0, 鶏羽毛0, HD皮内反応陽性, 沈降抗体はHD, カンジダで陰性, 鶏羽毛で陽性であった。吸入誘発試験はHDでIARとLARが, 鶏羽毛とカンジダでLARが認められた。HDの減感作療法を行うも効果は不十分で, 鶏舎の作業を避けて経過良好となった。

(考察) 本例の喘息発作の原因抗原としてHDのみならず鶏羽毛とカンジダの関与が考えられ, 特に鶏羽毛による喘息発作には, IgG抗体の関与が考えられた。

<MEMO>

#### 4. 製茶業者にみられた職業性茶喘息の一例

鹿児島鴨池生協クリニック ○栃木 隆男

鹿児島生協病院

檜田 祐一, 佐伯 裕子, 山下 英俊

昨年のアレルギー学会で浜松医大の白井らが報告した本邦第一例の茶喘息に続き第2例目と思われる茶喘息症例を経験したので報告する。

(症例) 41歳の男性。16年前より製茶業に従事。8年前33歳のとき喘息初発。当初は発作と仕事との関係ははっきり自覚しなかったが季節的には製茶業が一番忙しい4月～5月に発作が頻発する傾向にあった。4, 5年前頃より作業中にくしゃみ, はなみず, 咳, 呼吸困難が生じる様になり, また帰宅して再び夜間にも喘息発作が出るようになったので来院。IgE5 26U/ml, IgE-RAST all negative, アセチルコリン閾値625 $\mu$ g/ml。製茶工場で採取した茶塵の生食抽出液による皮内テスト, P-K テスト陽性, 吸入誘発テストで即時型と遅発型の二相性気管支反応を認めた。

(結論) 製茶業者にみられた職業性茶喘息の一例を報告した。皮内テスト, P-K テスト, 吸入誘発テストによりその発症機序としては主にレアギン型抗体の関与が示唆された。

<MEMO>

## 5. 営林署職員におけるハチアレルギー

獨協医科大学アレルギー内科 ○来栖 博, 生井聖一郎, 牧野 莊平

ハチ刺傷による症状は主としてハチ毒液中のタンパクに対する IgE 抗体によるアナフィラキシー反応である。

57名の営林署職員（事務職員33名，現場職員24名）のアンケート調査と採血により，全身症状の程度と血清 IgE RIST，ミツバチ，スズメバチ，アシナガバチに対する IgE RAST の関係を検討した。

57名中45名（78.9%）がハチ刺傷の経験があり，その内訳は事務職員は21名（63.6%），現場職員は24名（100%）であった。

ハチ刺傷の経験のある45名中8名（14.0%）にじん麻疹などの軽症全身反応を認め，2名（3.5%）に意識障害を伴う重症全身反応を認めた。IgE RIST ではミツバチ毒に14名（31.1%），スズメバチ毒に18名（40%），アシナガバチに11名（24.4%）が陽性反応を示した。

<MEMO>

## 6. 整形外科医のギブス固定時に見られた職業喘息の一例

国分寺診療所 ○小松 卓三 佐藤 文秀  
同愛記念病院アレルギー呼吸器科 佐野 靖之

患者 佐○文○ 38才 男性  
職業 整形外科医  
既往歴 特になし  
家族歴 子供に気管支喘息 1名 アトピー性皮膚炎 2名  
現病歴 以前よりアレルギー性鼻炎あり

1988年4月よりスコッチキャスト週4回平均取り扱う、1989年10月よりキャストライト週2回程取り扱う1989年12月キャストライト使用中にクシャミ、咽頭異和感、喘鳴、呼吸困難の喘息症状が出現し、以後本剤使用中は常に出現した。自覚的には2～3時間で症状消失していた。1991年5月に手袋をして作業していたが、前腕に触れて接触性皮膚炎を起こした。以後、マスクとゴム手袋で比較的良好に作業は出来ている。1990年9月施行の誘発テストで9分間の暴露にてクシャミ、咽頭異和感、胸が変で少し苦しくなり、経時的に施行した呼吸機能検査では前値VC 5820ml FEV1.0 4400mlより25分後にはそれぞれ4520ml (78%)、2840ml (65%)と低下を示し本剤に起因するものと思われた。

<MEMO>

## 7. 溶接作業時の油煙刺激による喘息の1例

伊勢崎市民病院 ○牧元毅之, 塚越秀男, 近藤忠徳,  
群馬大学 第一内科 根本俊和, 小林節雄

溶接の加熱による錆防止用油の油煙で惹起される喘息例を経験したので報告する。

症例：55才，男，溶接工，家族歴で父と父方の祖父が喘息。昭和51年より農家の納屋を改造し溶接業に従事したが，12年間喘息症状はなかった。昭和63年5月感冒罹患時に溶接を続けたところ，咳と痰，さらに喘鳴，呼吸困難が出現するようになった。近医で喘息と診断され投薬治療を受けていたが，紹介され平成2年1月伊勢崎市民病院を訪れた。ルーチン26種のMAST，RASTは全て陰性，好酸球増加と1秒率低下があった。錆防止のため鉄材に塗布された油の油煙刺激による喘息発作が疑われたため，油煙を吸入する溶接作業の前後と非作業時の同時刻のPeak Flow値を測定し，油煙吸入によりPeak Flow値が低下した。また排煙換気は症状改善に寄与した。

<MEMO>

## 8. 鼻粘膜過敏性をもたらした OS-oil に対する検討

日本医科大学 耳鼻咽喉科 ○谷本 秀司, 奥田 稔, 石田祐子  
日本臓器製薬生物活性科学研究所 浪松 昭夫, 吉村 弘之

我々は、ステンレス研磨用の OS-oil で通年性鼻アレルギー患者の病像が悪化した症例を経験し、そのメカニズムを明らかにするためモルモットを用い検討した。その結果、メサコリン誘発による鼻粘膜過敏性の検討, OS-oil 点鼻による鼻誘発反応の変化, 抗卵白アルブミン血清受動感作動物の抗原鼻誘発反応, 鼻粘膜組織学的検討等より, OS-oil には鼻粘膜障害作用及び抗原性が少ないが, 反復暴露により鼻粘膜過敏状態となり, 鼻アレルギー症状の悪化することが示唆された。

<MEMO>

## 9. イソシアネートによる職業性肺疾患

東京大学 物療内科 ○松崎 剛, 鈴木 直仁, 須甲 松伸,  
奥平 博一

同愛記念病院 アレルギー呼吸器科 荒井 康男, 宮本 康文, 佐野 靖之

対称：イソシアネート喘息 6 症例, 過敏性肺臓炎 1 症例, 職業：自動車塗装業 4 例, 実内塗装業 2 例, アクセサリー加工業 1 例。

方法：上記 7 例につき血清 IgE 値, 即時型皮膚テスト, アセチルコリン吸入閾値, さらにイソシアネートのうち, TDI, MDI, HDI の 3 種類で特異的 IgE および G 抗体, イソシアネートによる吸入誘発を行なった。

結果：イソシアネートによる即時型皮内反応および特異的 IgE 抗体は 7 例全例陰性であった。特異的 IgG 抗体は 1 例を除き健常者に比べ有意に高値を示した。アセチルコリン吸入閾値は 1250~5000  $\gamma$  と環境回避者 5 例では比較的高値であった。

TDI による吸入誘発は IAR 2 例, LAR 3 例, IAR+LAR 1 例であった。

<MEMO>

## 10. 肺癌を合併した超合金性間質性肺炎の一例

社会保健中京病院呼吸器科 ○野崎 裕広 小原 央生 西脇 敬祐  
名古屋大学第一内科 長谷川好規 下方 薫

症例は64才，男性。超合金刃研磨に1975年頃より従事。1988年の集団検診にて胸部 X 線写真上線維化を指摘。間質性肺炎の経過観察中に肺原発扁平上皮癌を併発し，1990年4月に右側下葉切除および R<sub>2</sub>リンパ節郭清術施行 (radical curative operation)。手術時の摘出肺病理所見にて外来金属と間質性肺炎との因果関係を示唆され，金属暴露歴等の検索開始。間質性肺炎の病理組織像は，GIP もしくは LIP 様であるが，著しい炎症像のため，断定的組織診断は不可能。ホルマリン固定肺の金属分析を現在施行中。職業歴より，超合金の関与が強く考えられ，同合金の構成元素である Co に対するパッチテストおよび，リンパ球幼若化試験施行。以上より超合金性間質性肺炎と考えた症例を報告する。

<MEMO>

## 11. SRBC 抗体産生応答に関する感作性金属の影響

藤田保健衛生大学 公衆衛生学 ○吉田 勉, 島 正吾, 谷脇 弘茂,  
衛生学 栗田 秀樹

産業現場における暴露金属及び生体微量金属のうち、生体の免疫応答に対して増強あるいは抑制作用を有する、いわゆる immunomodulator として作用するものがいくつか報告されている。本研究は、感作性金属のうちベリリウム (Be), ジルコニウム (Zr), 白金 (Pt), コバルト (Co) 及びニッケル (Ni) の immunomodulator としての免疫毒性について、ヒツジ赤血球 (SRBC) 感作マウスの脾細胞を用い、in vitro の SRBC 抗原抗体反応 (SRBC-AAR) に種々濃度の上記金属を添加し、その細胞に対する影響を検討し、Be, Zr, Ni は液性免疫応答を増強する immunomodulator としての特質を有する感作性金属であることが示唆された。

<MEMO>

## シンポジウム I (15:00~16:40) 「メタルによる職業性アレルギー疾患」

司 会 自治医科大学 衛生学 日下 幸則  
名古屋大学 第二内科 佐竹 辰夫

粉じん吸入では、一般に大なり小なり結節を生ずるが、結節と結節の間は正常の肺胞構造で占められている。しかも、結節のすべてを集めても手拳大に達しない。一方、肺の予備能力は大きく、例えば1回換気量の0.5ℓに比し、肺活量は8倍以上に及ぶため、じん肺がX線所見でⅢ型以上に進行していても殆ど肺機能障害は生じない。しかし、稀には結節と結節の間の肺胞組織や支持組織にも障害が生じ、呼吸器能障害が指摘される症例も報告されてきた。

このびまん性の肺障害は

- 1) どのようにして起こるのか？
- 2) その早期診断は？
- 3) どういうヒトに起こりやすいのか？

しかし、稀にしか生じない理由は？

など、なお不明といえよう。

ここでは、アルミニウム、ロジウム、ベリリウム、超合金など、メタル吸入の症例から検討したい。

<MEMO>

## シンポジウムⅡ (16:45~18:25) 「化学物質による職業性疾患」

司 会 藤田保健衛生大学 皮膚科 上田 宏  
名古屋大学 衛生学 竹内 康浩

〔目的要旨〕産業現場では10万種以上の化学物質が使用されており、さらに毎年新しい化学物質が導入されている。そして、化学物質による多彩な健康障害が発生してきたが、最近では労働環境の改善により、典型的な職業性中毒は少なくなり、職業性アレルギーの重要性が大きくなっている。職場で取扱っている化学物質で一旦感作されると、微量の曝露でも発症するようになり、原因が解明されないまま長い間その病気に苦しめられる労働者も少なくない。最近では免疫学やその応用の進歩によりアレルゲンの検出も正確に出来るようになり、原理的にはアレルゲンから患者を隔離すれば、その発症は防止できる。従って、アレルギー性の疾患であるかどうか、そのアレルゲンは何かを解明することは、職業性アレルギー疾患の治療や予防対策に極めて重要である。そこで、内科学、皮膚科学、産業医学、農村医学のこの分野の経験豊かな演者から経験事例を中心に話題を提供して頂き、討論を深めたい。

<MEMO>

# 職業アレルギー研究会定款（改訂案）

平成3年2月2日  
世話人会  
あり方委員会

## 第1条（名 称）

本会は職業アレルギー研究会と称する。

## 第2条（目 的）

本会はわが国における職業に起因するアレルギー疾患の調査，基礎ならびに臨床的研究，予防治療の改善発達に寄与することを目的とする。

## 第3条（会 員）

- 1) 会員は職業アレルギー疾患に関する研究を行っているもの、および指導にあたるものとする。
- 2) 会員の年会費は、5000円とする。
- 3) 新入会員は会員の推薦により世話人会で決定し、総会の承認を経るものとする。
- 4) 3年以上研究会に不参加、又は3年以上会費未納の場合は、世話人会の議を経て会員としての資格を失うことがある。あるいは、会の名誉を著しく傷つけた場合も資格を失うことがある。
- 5) 会員以外の参加は、臨時会員とする。

## 第4条（総会、研究会）

- 1) 総会および研究会は、年1回開催する。研究会参加者からは会場整理費を徴収する。
- 2) 臨時会員の傍聴その他、研究会への特別参加の可否については、会長の判断に委ねる。

## 第5条（役員、世話人、事務局）

本会は会員の互選により名誉会長1名、会長1名（任期は1年とする）、および世話人若干名、会計監査1名、事務局若干名をおく。

以上の役員は任期2年とし再任を妨げない。上記のメンバーで世話人会を構成し、年2回、開催する。

本会は事務局を、群馬県前橋市昭和町三丁目39番22号、群馬大学医学部第1内科学教室におく。

## 第6条（その他）

本会の収支決算は3月末日をもっておこなう。

## 職業アレルギー研究会 会長名簿

回数	世話人	開催会場
第1回 (45年)	群馬大 七条小次郎 教授 (内科)	水上 (群馬県)
第2回 (46年)	岩手医大 光井庄太郎 教授 (内科)	盛岡市 (岩手県)
第3回 (47年)	三重大 宮地一馬 教授 (内科)	鳥羽市 (三重県)
第4回 (48年)	広島大 西本幸男 教授 (内科)	宮島 (広島県)
第5回 (49年)	独協医大 石崎達 教授 (内科)	鬼怒川 (栃木県)
第6回 (49年)	和医大 奥田稔 教授 (耳鼻咽喉科)	和歌山市 (和歌山県)
第7回 (51年)	群馬大 小林節雄 教授 (内科)	草津 (群馬県)
第8回 (52年)	大市大 塩田憲三 教授 (内科)	宝塚市 (兵庫県)
第9回 (53年)	国立福岡南長野準 院長 (内科)	雲仙 (長崎県)
第10回 (54年)	名保大 島正吾 教授 (公衛)	犬山市 (愛知県)
第11回 (55年)	福島県環境医学研究所 赤阪喜三郎 所長 (内科)	福島市飯坂 (福島県)
第12回 (56年)	国立相模原病院 信太隆夫 医長 (内科)	箱根天成園 (神奈川県)
第13回 (57年)	大分大 中村晋 教授 (保健センター)	別府市 白菊 (大分県)
第14回 (58年)	近畿大 中島重徳 教授 (内科)	奈良市 奈良ホテル (奈良県)
第15回 (59年)	東京大 宮本昭正 教授 (物理療法学内科)	高輪プリンスホテル (東京都)
第16回 (60年)	県立広島病院 城智彦 部長 (内科)	広島市 三滝荘 (広島県)
第17回 (61年)	独協医大 牧野荘平 教授 (アレルギー内科)	ホテルニュー塩原 (那須塩原) (栃木県)
第18回 (62年)	我孫子中央病院 中川俊二 副院長	有馬温泉 兵衛向陽閣 (兵庫県)
第19回 (63年)	郡大 笛木隆三 助教授 (内科)	水上温泉水上館 (群馬県)
第20回 (元年)	国立病院医療センター 可部順三郎 科長 (呼)	浅草ビューホテル (東京都)
第21回 (2年)	熊本大 石川哮 教授 (耳鼻咽喉科)	阿蘇観光ホテル (熊本県)
第22回 (3年)	名古屋大 佐竹辰夫 教授 (内科)	グランドホテル浜松 (静岡県)
第23回 (4年)	岡山大 木村郁郎 教授 (内科)	